

《株式会社エフエム東京 第397回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 25 年 4 月 2 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(6 名)

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	香 山 リカ 委員
西 田 善 太 委員	秋 元 康 委員

◇欠席委員(0 名)

◇社側出席者(7名)

富木田 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
黒 坂 常務取締役 編成制作局長  
平 取締役 営業局長  
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
植 田 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(2 名)

石 井 常務取締役  
長 澤 常勤監査役

【事務担当 延江放送番組審議会事務局長(代行)】

4. 議題: 番組試聴 (約 20分)

Skyrocket Company

2013 年 4 月 1 日(月) 17:00~18:45

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎2013 年 2 月度 聴取率調査結果について

メインターゲットである M1F1、12～59 才個人全体とも 12 月同様の結果となりました。20 代では女性が微増し、30 代は同率、40 代は男女とも増加しましたが全体数字の顕著な押し上げには至りませんでした。聴取率向上を目指して以下のような 4 月改編を実施します。

◎4 月番組改編について

いつも TOKYO FM の放送には新しい発見があり、そうそう！と頷きたくなる共感性があり、誰かに話したくなる、また聴いてみようと思える・・・トーク・話題・音楽が満載の FM ラジオステーションに。この基本目標をめざして平日帯を中心とした 4 月番組改編を実施します。主に平日ワイド番組において、M1,F1 を中心としたターゲットリスナーである、今の東京の生活者の心理変化、時代環境、本当の関心事を検証し、生活行動、生活心理によりフィットした番組の具現化を目指した新番組をスタートします。

☆午後 1 時は、知的欲求を満たすオフィス聴取向け新ワイドに

**【新番組】アポロン／齊藤美絵（月）～（木） 13:00～14:55**

平日 13:00、ターゲットの生活行動に即した改編を実施します。まず男性の 7～8 割、女性の 3 割は就業中であり、この時間帯はオフィス空間で聴いてもらうのが狙うべき聴取シーンであると捉え、仕事の妨げにならず、且つ仕事中にさりげなく耳に入り込んでくる上質な情報&音楽空間を提供する新ワイド番組を編成します。

新番組「アポロン」では、巷で話題のモノ・コト・人が、なぜ生まれたのか？生活者の行動を分析したり、歴史を紐解いてみたりしながら、知識を、“生きる知恵”にしてもらうプログラムです。仕事をもっともはかどる午後イチの時間帯、オフィスで働きながら、スマートに情報収集してもらうことを心がけます。パーソナリティーには、落ち着きある優しい語り口の齊藤美絵を起用します。

☆夕方、若者向け“ラジオの中の会社”新ワイド導入

**【新番組】Skyrocket Company／マンボウやしろ+1 名（月）～（木） 17:00～18:45**

今回の平日改編ゾーニングでは、上記「アポロン」(13:00～14:55)、「シンクロのシティ」(15:00～17:00)に加え、もう1ワイドを夕方に増設します。20 代をメインターゲットに据え、仕事に頑張るヤングビジネスマンを本気で応援する『Skyrocket Company』をスタート。すべてのリスナーを「社員」と位置づけてスマホ時代のネットツールを駆使してコミュニケーションする“ラジオの中の会社”企画を導入します。

出演者は、「SCHOOL OF LOCK!」を昨年惜しまれながら降板した、やしろ教頭こと「マンボ

ウヤシロ」を起用。日々の職場での一喜一憂に充実を見出せる場所となったり、元気が沸いてくる場所となったり。働くリスナーとつながりながら、明日への狼煙を上げる「ベンチャー企業」としてスタートします。

そのほかの平日ワイド番組についても、生活行動調査に基づいた時間枠の変更、新企画の投入、また、企画・トーク・選曲の短期的レベルアップのための有力指導者の配置などを行い聴取率向上を目指してまいります。

### ☆深夜 25 時枠を、ディープカルチャー戦略ゾーンに改編

月～木深夜 25 時台を東京ローカルゾーンとし、マルチメディア放送事業本部、クロスメディア開発部、統合メディア戦略室と連携して、新たな戦略ゾーンとして改編します。ディープで有能な才能、企業とのパートナーシップを深化・加速させ、ラジオだけに留まらないクロスメディアコンテンツを開発します。古典落語と新作落語を巧みに演じる新進気鋭の噺家「柳家喬太郎」、世界を舞台にアニメソングイベントをプロデュースし続ける「“齋藤P”こと齋藤光二」、クールジャパン官民有識者会議にも参加し、秋葉原でのライブハウス運営やアーティストプロデュースを手掛ける「“もふくちゃん”こと福嶋麻衣子」、秋葉原の新名所バックステージ pass から飛び出したアイドルグループ「バクステ外神田一丁目」らが番組を担当します。

### ☆主な土日新番組

#### ピートのふしぎなガレージ

(土)17:00-17:50 提供:三菱自動車工業

『サタデー・ウェイティングバーAVANTI』が 21 年間の番組を終了し、同枠に新番組『ピートのふしぎなガレージ』がスタートします。舞台は、いつもなにやら物音が聞こえてくる、丘の上の古い洋館のガレージ。ゴルフやフィッシング、バーベキュー、マリンスポーツなど、その道のプロのウンチクをおりまぜながら、オトナの外遊びを提案するプログラムです。

#### スカパー！日曜シネマテーク

(日)15:30-15:55 提供:スカパー！

パリの裏町にある古い名画座(シネマテーク)を舞台に、この映画館をおとずれたゲストたちが、自分が心動かされた映画の魅力を語ります。作品のみどころはもちろん、そこに描かれる人生観・恋愛観やファッション、クルマ、インテリア、食事、ちょっとした仕草、台詞回しなど、さまざまな角度から映画の魅力をひもといていきます。

### ◎安部礼司 東日本大震災から2年 岩手県での公開生放送を実施

番組上のキャラクターでありながら、県外に岩手の魅力を伝えた人物に贈られる「希望郷いわて文化大使」に任命されている「NISSAN あ、安部礼司」の主人公・安部礼司と、その親友・刈谷勇。震災から2年を迎える2013年3月10日、『安部礼司』は3度目となる岩手県を訪ね現在の様子を全国へお伝えしました。

岩手県遠野市市民センター大ホールで900名のリスナーを招待した公開イベントを実施した

ほか。イベントの前日には陸前高田市での桜の植樹のボランティア活動を行いました。



▲津波到達ラインの斜面に植樹する安部礼司

陸前高田市内のおよそ170kmに渡る津波到達ラインに桜を植樹し、ラインにそった桜並木を作ることで後世の人々に、津波の恐れがあるときにはその並木より上に避難するよう伝承していくプロジェクト、特定非営利法人「桜ライン311」。今年1月に開催した番組イベント「あべフェス」で集まった249,422円の募金を寄付し、植樹も行いました。

◎“AVANTI”最終回イベントを実施

1992年のスタート以来21年間、TOKYO FM/JFNを代表する番組として愛されてきた『東京一の日常会話 サントリーサタデー・ウェイティング・バーAVANTI』(土17:00-17:50)が、2013年3月30日の放送で最終回を迎えました。番組では21年の感謝を込めて、同日、ファイナルイベント THANK YOU 『AVANTI』 presented by JIM BEAMを開催。会場を埋め尽くす多数のリスナーがつめかけました。

12時のオープンから会場は満員状態。17時からは最終回の放送をみんなで楽しむパブリック・リスニングを実施。放送が終わると会場は盛大な拍手に包まれました。18時からセレモニーでは、番組で大学教授役を務めた団しん也さんがステージに登場。AVANTIの思い出話とともに、ミニジャズライブを披露。バーテンダー、スタンと会場に集まったリスナーとともに乾杯をしてファイナルを迎えました。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

■補足だが、東日本大震災から2年の時期の3月7日(木)～11日(月)の5日間、朝から夜まで、各番組の考え方に沿って、被災地での取材を行い、現地の方々が未来を切り拓こうとする努力の様子に注目して、特別企画を実施した。

○今回の改編で新しい番組が目白押しというのは楽しみだ。個人的にはアポロンに興味がある。仕事の妨げにならず、さりげなく耳に入るラジオというのが実際どうなのか、というのは早速聴いてみたい。

○「日曜シネマテーク」には司会がいるのか？

■名画座の主人ということで、元 PREMIRE 編集長であるグレゴリー・スター氏にお願いしています。古今東西の映画のうんちくを、サントラをかけながらご紹介していく予定です

○AVANTI の最終回のイベントに参加したが、終わり方がハッピーだったのが良かったと思う。局のイメージになっていた名物番組の終了は惜しい。

議題2: 番組試聴 (約 20 分)

【番組名】 Skyrocket Company

パーソナリティ:マンボウやしろ、浜崎美保



【放送日時】 2013 年 4 月 1 日 (月)

17:00~18:45

【番組概要】

2013 年 4 月 1 日 (月)よりスタートしたばかりの新番組です。

20 代をメインターゲットに据え、仕事に頑張るヤングビジネスマンを本気で応援する『Skyrocket Company』をスタートしました。

ゆとり世代、草食系・・・ネガティブな言葉で評論されることが多い 20 代。でも、それは彼らが自ら望んだものではなく、厳しい経済環境と拡大するネット社会の中で育つ過程で身に付いた「そこでやっていける」生き方のやむを得ない選択ではないでしょうか。

一方、高齢化、人口減少局面の日本で希望になれるのは 20 代やその次の世代しかいません。だからこそ、彼らを応援するプログラムを立ち上げました。

恥ずかしげも無く夢やロマンを語り、努力して、日々の一喜一憂に充実を見出せる場所を生み出し、人とつながりながら、情熱を傾ける何かを見つけて欲しい、と考えます。

番組は、すべてのリスナーを「社員」と位置づけてスマホ時代のネットツールを駆使してコミュニケーションする“ラジオの中の会社”として展開します。番組名の「Skyrocket」とは、狼煙(のろし)や打ち上げ花火のこと。番組は“ラジオの中の会社で行われる夕方ミーティング”という設定で、リスナーが社員となり、ラジオ、スマホ、PCで会議に自由に参加してもらいます。

この会社の本部長は「SCHOOL OF LOCK!」を昨年惜しまれながら卒業した、やしろ教頭こと「マンボウやしろ」。そして秘書は浜崎美保。今年 20 周年を迎える渋谷スペイン坂スタジオからの公開生放送です。

マンボウやしろ

よしもとクリエイティブエージェンシー所属の芸人。

2005 年 10 月から 2012 年 3 月まで TOKYO FM(全国フルネット)「SCHOOL OF LOCK!」で「やしろ教頭」としてパーソナリティを務める。リスナーと対等に話せる頭の回転の速さと豊富な語彙で、圧倒的な支持を集めた。「芸人」を感じさせない天才肌で、謎めいた特異なキャラクターと、新しい笑いのセンスに評判が高い。





浜崎美保

鹿児島県出身のマルチタレント。モデル/タレント/パーソナリティ/ライターなど多岐に渡り地元メディアで活動後、2009 年より拠点を東京へ移す。

'09 年夏、拠点を東京へ。

2005 年 4 月～2008 年 3 月まで、FM 鹿児島の方の名物番組「MUSIC POWER STATION feel the *music* DA!!」でアシスタント・パーソナリティを担当。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○企画の意図はわかるが、これを誰がどこで聞くのかがよくわからない。仕事をして帰ろうとしている、まだオフィスにいて聴こうという人たちにとってはもうちょっと会社から離れたい、バカバカしいものを求めたいのではないかな？ 会社員に向かって会社の体をなした番組をつくるよりも、「会社なんかやめちゃえ」という悪い番組の方が説得力があるのではないかな。「会社に対する不平不満」を集め、「でも根底に実はある会社愛」も感じつつ、悪魔のささやきのように、会社をなくそうという秘密活動をしている番組の方が面白いのではないかな。枠にはまりすぎているのではないかな。

○堅い会社に勤めたことがない人たちが作っているなという印象だ。決まった時間にスーツで来る。残業すればハンコ、社長には社員は会えない、といったいわゆる日本企業の典型的なシーンがない。また、朝の通勤ラッシュはハンドバッグから手を離しても落ちないぐらい混んでいるのだから、通勤時間を有効活用しようというアドバイスはリアルではない。「本部長」という肩書きがよくわからない。リアルにするのであれば、徹底的にリアルにする必要がある。やしろ本部長が「やめたい」というリスナーに対して意外と保守的だったので、やめたい側を擁護する演出も必要ではないかな。また、会社の組織イメージがまだ明確でないので、やしろさんに上司がいたり、ライバルと争ったりなど細かな設定が裏にはあった方がいい。

○パーソナリティのトークは明るくていいが、「やめてやる！」ではなく、雇う側の「やめてほしい！」という方の意見もいっぱいあるのではないかな。やめてもらうのも大変なことで、雇い主の悩みもある。社長の悩みの 60%は人間関係だとも聞いたことがある。そういう視点と対比させてもよかったかもしれない。

○昨日、この番組を生で聴いていた。大企業でこの時間にラジオを聴くことケースは多くないだろうが、病院や小さな事業所、お店の休憩室でかかっているイメージがわく。そういうときに聴く感じとしては、こういうゆるさは合っていると感じた。内容というよりも、

職場の人じゃない人に「おつかれさまでした！」と言われることが心に響いた。この番組を聴ける状況にある、疲れた働く人にはまるものになればいいと思う。今は、職場にも愚痴を言える給湯室的な場所が減っていると思うので、そういった役割になればいいと思う。メールを読む秘書の口調が、もっとサラリーマンや OL を代弁して、本部長の言う正論にも少し反論するような構図になればいいと思う。

○「会社」という枠組みは、みんないろいろと意見があるので、面白いかもしれない。今聴いただけだと、会社の枠組みを遊びに使って多少悪ふざけをしているような印象もあった。会社と言いながら、飲み屋のようなゆるさが魅力なのかもしれないが、最初にパーソナリティの二人が、「会社勤めをしたことがない」と言ってしまったのがよくない。もっと役になりきった演出がほしい。明日の会議で使えるビジネスニュースなど、少し実用的な情報を入れてみるのもいいのではないかな。本当の会社のように半年に一度自己評価をやったり、研修会をやったりなど、まだ遊びようがある。

○時間帯と内容のマッチングが疑問だ。この時間帯はまだ仕事中的人も多く、仕事の後の気分転換には早い時間帯だと感じた。「20 代を応援する番組」ということ自体が上から目線ではないか。今どきの若い人たちは応援なんてしてもらわなくていいと思っている。彼らの年代は冷静なので、その応援自体が何のことだかわからないだろう。やしるさんのキャラクターは、サラリーマンというある程度固まった頭をシャッフルしてくれるようないい意味での引っ掻き回しで、楽になるヒントを与えてくれる感じがいいと思う。一方、実際の秘書は非常に冷めた見方をしている人が多いので、浜崎さんは反対意見を言ってくれた方がいい。サラリーマンの奥さんたちが聞いている可能性もあるので、そういったリスナーを意識してみてもいいのではないかな。

★次回の放送番組審議会は、5月7日(火)11:00～ の開催となります。